筑後市文化財調査報告書

梅島遺跡

第１次調査

1992

筑後市教育委員会

序

梅島遺跡の発掘調査は、水資源開発公団筑後川下流用水事業の筑後川導水路埋設工事に伴って、平成２年度に導水路埋設予定地内に所在する埋蔵文化財の調査を行ったものです。

本年度、当筑後地方は２度にわたって台風の直撃を受け、文化財も多大な被害を被りました。その復旧を含めて、文化財全体の保護は緊急な課題です。

さて、ここに報告いたします梅島遺跡の発掘調査では、弥生時代から中世にかけてのさまざまな先人たちの生活の跡を見る機会を得ました。しかしながら、調査範囲が非常に限られていたため、遺跡の全体像をつかむには程遠い状態です。目下、平成３年度事業で第２次調査を実施したところです。その成果を合わせて遺跡の全体像に迫りたいと思います。

この報告書は2カ月間にわたる発掘調査の記録であり、今後の文化財保護思想の普及の一助として、また学術研究の資料として、広く活用していただければ幸いです。

おわりに、この報告書の刊行にあたりいろいろと御指導・御協力をいただいた関係各位と厳寒期にもかかわらず発掘調査に参加された皆様に対し、厚く御礼申し上げる次第です。

平成４年３月20日

筑後市教育委員会

教育長　森田基之

例言

1．本書は水資源開発公団筑後川下流用水建設所が実施した、平成２年度筑後川下流用水事業の事前調査として筑後市教育委員会が実施した、埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．発掘調査及び出土遺物の整理は、筑後市教育委員会が行なった。調査関係者は第II章に記したとおりである。なお、出土遺物は筑後市教育委員会が収蔵・保管している。

3．今回の調査に用いた測量座標は国土調査法第Ⅱ座標系を基準としている。また水準はT.Pを、方位はG.Nをそれぞれ基準とする。

4．遺構実測図・遺構写真及び遺物写真は永見秀徳、遺構の空中写真・遺構の全体図は朝日航洋（株）による。遺物の実測図及び浄書は平塚あけみ、江藤玲子（香蘭女子短期大学学生）が行った。なお、遺物写真は第2次調査の報告書に掲載する予定である。

5．報告書作成にあたり、狭川真一、山村信榮氏（太宰府市教育委員会）、上村英士氏（第一経済大学学生）には多大なご指導、ご協力を得た。記して感謝申し上げる次第である。

6．本書の執筆は主として永見が行い、全体にわたり小林勇作の協力を得た。編集は永見が担当した。

目次

Ⅰ．位置と環境 ―――― 1

Ⅱ．調査の経過 ―――― 3

Ⅲ．調査の概要 ―――― 4

Ⅳ．結語 ―――― 25

Ⅰ．位置と環境

梅島遺跡は筑後市南部の筑後市大字常用（つねもち）に所在する。

筑後市は南筑平野のほぼ中央部にあり、東部は八女市から続く八女丘陵の西端にあたり標高10～20mの低丘陵の様相を呈し、梨・葡萄などの果樹園が多く見られる。また、西部は標高5m以下の低地がひろがりクリークが縦横に走っていて、当地方特産のい草の栽培が盛んに行われている。市内にはJR鹿児島線・国道209号線が南北に縦断し、国道442号線が東西に横断している。また、市の東端では九州自動車道が八女I.Cで国道442号線に接続している。このような交通の利便性から、近年では工場の進出やベッドタウン化がすすんでいる。

梅島遺跡はこのような筑後市の南部にあって、低丘陵から低地に漸移するところに位置し、西側にはクリークの多い水田地帯を望むことができる。

次に、梅島遺跡周辺の主要な遺跡について概観する。0.5km東方には弥生時代前期の集落・墓地跡の常用遺跡があり、1.5km東方には縄文時代の集落跡の裏山遺跡がある。また、北に眼を転じれば、1km北方には弥生時代から古墳時代にかけての集落跡である榎崎遺跡があり、1.5km北方には弥生時代前期末から後期にかけての集落跡の久清遺跡がある。また、1km北方には中世から安楽寺天満宮の所領として栄えた、水田荘（みったのしょう）の名残をとどめる水田天満宮があり、今も人々の厚い信仰を受けている。また、南方2kmには一級河川矢部川が流れ、その南には瀬高町の弥生時代から古墳時代にかけての遺跡群が点在している。

FIg.1　梅島遺跡調査地点位置図（1/5,000）

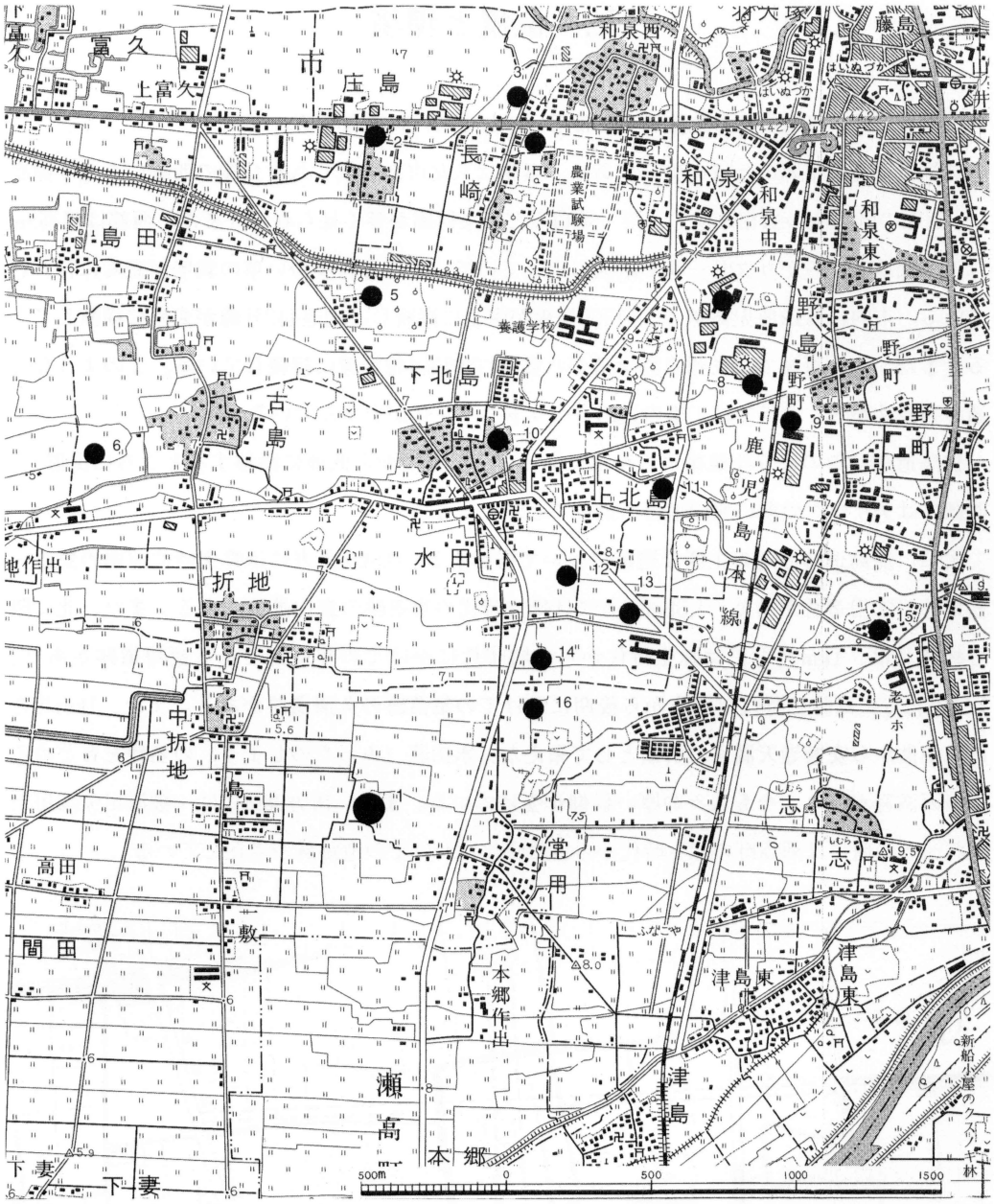


FIg.2　筑後市周辺の遺跡（1/25,000）

1.梅島遺跡	2.石塚寺跡	3.坊田遺跡	4.長崎遺跡
5.久清遺跡	6.古島遺跡	7.井原口遺跡	8.狐塚遺跡
9.平塚遺跡	10.水田天満宮	11.上北島遺跡	12.居流遺跡
13.平霊石ドルメン遺跡	14.山伏遺跡	15.裏山遺跡	16.常用遺跡

Ⅱ．調査の経過

筑後川下流用水筑後導水路は、筑後川から南筑後地区の農地に農業用水を供給する目的で久留米市から筑後市、瀬高町を通り高田町まで水資源開発公団によって敷設される。今回の梅島遺跡発掘調査は、この筑後川下流用水事業に伴い実施したものである。

さて、調査に至る経緯は次のとおりである。平成2年9月に水資源開発公団から筑後市教育委員会に平成2年度施工予定地内の文化財の取扱いについての事前協議があり、その結果、筑後市大字常用に所在する梅島遺跡で導水の埋設予定部分について発掘調査を実施することになった。そして同年12月、筑後市議会12月定例議会での補正予算案の議決を経て、平成2年12月21日付けで水資源開発公団が筑後市教育委員会に発掘調査を委託する旨、委託契約を締結した。

現地での発掘調査は、契約締結翌日の12月22日から重機と作業員を同時に投入し、平成3年1月10日に模型ヘリコプターによる航空写真測量を実施して調査を完了した。

また、出土遺物の整理および報告書の作成については、発掘調査の完了が年度末に近いうえ筑後市教育委員会の体制が不十分であるため、協議の結果、平成3年度に実施することとなった。

なお、梅島遺跡発掘調査の体制は次のとおりである。

調査主体	筑後市教育委員会	
総　括	教育長	森田　基之
	教育部長	橋本　益夫（平成3年4月から）
庶　務	社会教育課長	江里口　充（平成3年3月まで）
		延　　文雄（平成3年4月から）
	社会教育係長	松永盛四郎
	社会教育係	永見　秀徳（調査担当）
		小林　勇作（嘱託）

Ⅲ. 調査の概要

今回実施した梅島遺跡の発掘調査では、現在活用中の農道が調査対象地を横切る形で1本走っているため、南北2つの調査区を想定して調査を開始した。しかし農道の北側では現代の撹乱が激しく、遺構の残存状況が極めて悪かったため調査対象地を農道の南側のみとし、実際の調査に取りかかった。

(1) 層位について

調査区の南側では、通称「八女ローム」と呼ばれる赤茶色粘質土を地山とし、遺構はその面から切り込む形で検出され、埋土は概ね黒色砂質土が入っている状況であった。一方北側では、八女ロームの上に暗茶褐色粘質土がかぶり、遺構はそこから切り込んでいた。埋土は黒色砂質土が入っている状況であったが、竹林であったために竹の根が多く、その影響で土色がぼやけ遺構検出は困難を極めた。また、遺構を掘り下げていくと殆どの遺構が小礫を多く含んだ砂質土となり、そこが遺構の底になることが多い。

(2) 検出遺構

Fig.3-1には遺構配置図を示したが、Fig.3-2に示した略測図及びTab.1-1～1-3の遺構一覧表に各遺構の計測値を掲載したので参照されたい。したがってそこに記載した以外の情報についてのみ本文中で触れるが、紙数の関係から概略を記載するにとどめる。

竪穴住居

1SI001　住居と認識したのはこれ1棟のみである。遺構面検出段階ですでに床面が露出していたようで、写真にみるように主柱穴と思われるピットが隅部に確認される。完掘写真は床面を除去した段階で凹凸が著しい。

柵列

1SA079　1SI001床面を除去した段階で確認された掘形があり、住居跡より先行して構築されたことがわかる。2間分を確認したが、建物として西側に延びている可能性もある。

竪穴

ここで竪穴と報告したものは住居の可能性も残されるものをまとめている。調査区が南北に長く、ほとんどの遺構が調査区外に延びるものであり性格を特定することが難しい。第2次調査で今次の調査区の東西両側を発掘調査しており、第2次調査の報告に際してあらためて検討し直したい。

溝

調査区を東西に横切るものが多く、竪穴と同様に第2次調査でその延長部分を検出しているものもある。詳細な検討はその際に行いたい。

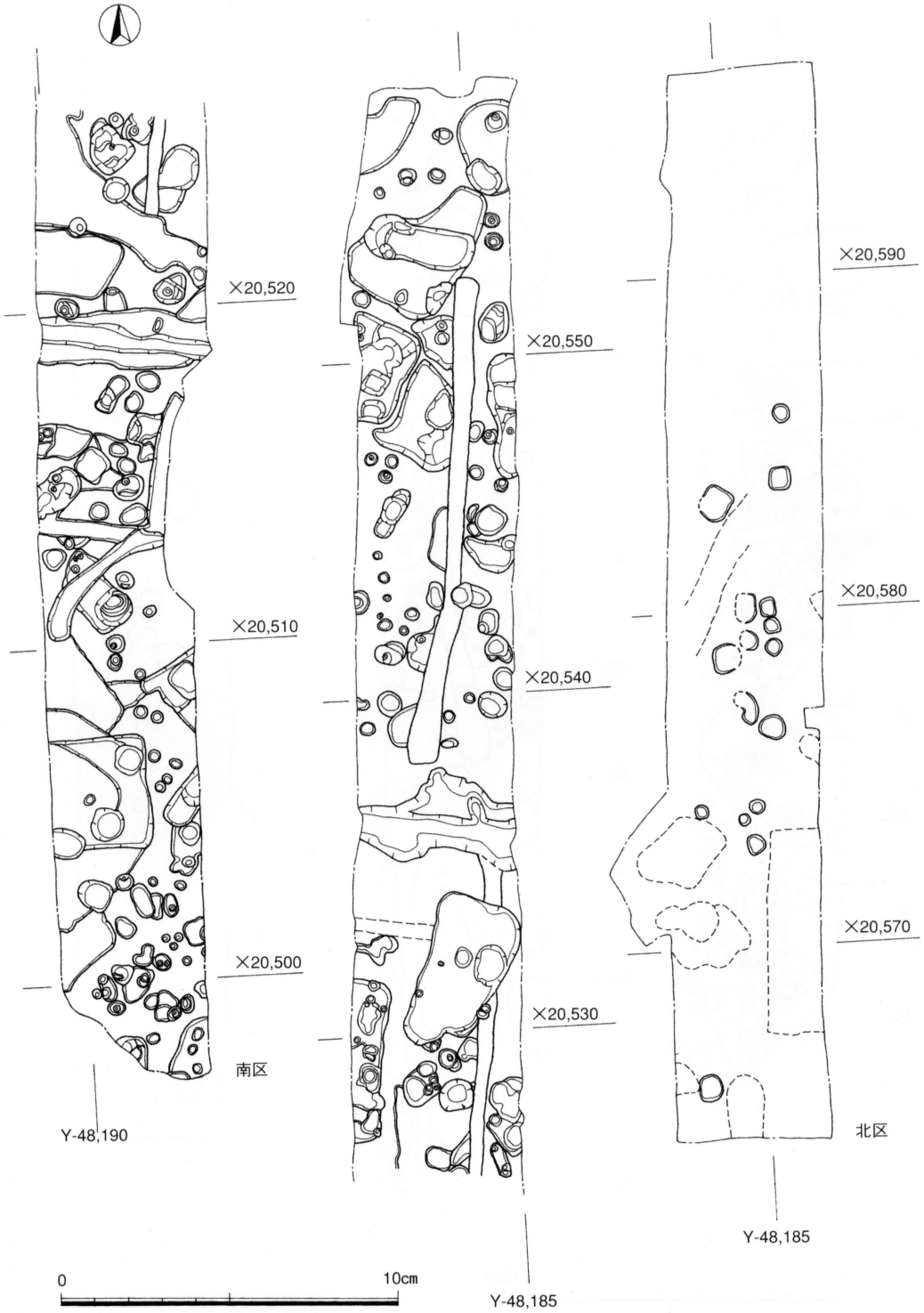


FIg.3-1　梅島遺跡第1次調査遺構配置図（1/200）

FIg.3-2　梅島遺跡第1次調査遺構配置略図及び遺構仮番号位置図

Tab.1-1　梅島遺跡第1次調査遺構番号台帳（1）

（凡例）
・遺構計測値の単位はすべてmである。
・遺構線が傾いているものは右図のようにした。
・円形の遺構は南北長の欄に直径を記載している。
・溝は長さ、幅、深さの順で記載している。
・数値の後に＋のつくものは検出長である。
・遺構の切合いについては（古→新）で記載している。

仮番号	遺構番号	種別	南北長	東西長	深さ	所見	時期	地区
1	1SI001	住居	3.20	2.80+	0.13	21←1 ←78	弥生	BG4・5
2	1SX002	竪穴	1.50+	0.90+	0.17	82→81→2	弥生	BH4
3	1SK003	土壙	0.95	0.80	0.25	79→3	中世	BH5
4	1SK004	土壙	2.90	1.50+	0.08	a・bのピットあり	弥生	AP3・4
		a	0.60	0.65	0.14			
		b	1.10	0.80	0.17			
5		土壙	1.05	0.55	0.32		弥生	BH5
6	1SK006	土壙	1.00	1.05	1.01	68←6	弥生	BE4
7	1SK007	ピット	0.45	0.55	0.27		弥生	AP4
8		ピット	0.50		0.19		弥生	AQ4
9		ピット	0.55		0.30		弥生	AQ4
10	1SK010	土壙				上層・下層あり	弥生	AQ4
		上層	4.25	3.20	0.13			
		下層	1.10	3.10	0.27			
11		ピット	0.55		0.22		弥生	AQ4
12		土壙	2.80	1.60+	0.11	12→15	弥生	AS4
13	1SD013	溝	14.40	0.65	0.30	13←12	中世	AS4
14		土壙	3.70	0.85+	0.27		弥生	AS3
15	1SX015	竪穴	3.06	2.15+	0.12～0.29		弥生	AS5
16		ピット	0.45		0.11		弥生	AS4
17	1SX017	ピット	0.60	0.45	0.13		弥生	AS4
18	1SX018	ピット	1.20	0.85	0.17		弥生	AR4
19	1SX019	ピット	1.50	0.65	0.36		中世？	AR4
20		土壙	0.85	0.80	0.12	20←23	弥生	AT4
21	1SX021	土壙	0.85	0.90+	0.15	21←1	弥生	BH5
22		土壙	0.90	1.50	0.22		中世	AT4
23		ピット	0.45		0.04	23→20	弥生	AT4
24		ピット	0.85	0.50	0.18	24→13	弥生	AJ4
25		土壙？	0.75	1.20	0.42	25→13	中世	AJ4
26		ピット	0.40		0.11		弥生	AJ5
27		ピット	0.50	0.80	0.32		弥生	AJ5
28		土壙	1.10+	0.70+	0.28	28→13	弥生？	AJ4
29		ピット	0.70	0.65	0.29		弥生	AV5
30	1SK030	土壙	1.00+	0.80+	0.22	30→13	弥生	AV4
31		土壙	1.40	1.10	0.20			AZ4
32		土壙？	2.35	1.35+	0.10～0.30		中世	AZ3
33	1SK033	土壙	0.85	1.00	0.66		中世	AZ4
34		土壙？	0.70	0.60+	0.03	34→41	弥生	AY4
35		土壙？	2.20	0.85+	0.46～0.12	35→41	弥生？	BA4
36	1SX036	ピット	0.45		0.29		中世	BA4

Tab.1-2　梅島遺跡第1次調査遺構番号台帳（2）

仮番号	遺構番号	種別	南北長	東西長	深さ	所見	時期	地区
37		土壙	1.45	1.20	0.30～0.06		中世	BA4
38		ピット	0.75		0.24	38←42	弥生	BA4
39		ピット	1.05	0.40	0.27		弥生	AZ4
40	1SK040	土壙	4.75	2.55	0.29		弥生？	AY4
41		溝	12.15	0.45	0.10	41←40	弥生？	BA～AW4
42	1SD042	溝	6.0+	2.90	0.03		弥生	BB3 ～AZ5
43		ピット	0.50	0.19	0.04	43←42	弥生	BB5
44		土壙	2.20	1.45	0.10～0.02	44→41	弥生	BA4
45	1SX045	竪穴	1.95	2.40+	0.03		弥生	BB5
46		ピット	0.75		0.41	46←47	弥生	BB5
47	1SD047	溝	5.05+	1.80	0.22		中世	BC4・5
48	1SK048	竪穴	4.80	0.90+	0.41～0.22		？	AZ5
49		土壙	0.70	0.65	0.10	49→47	弥生	BC4
50		土壙	1.05	0.85	0.33～0.06		弥生	BB4
51	1SK051	土壙	1.15	0.80+	0.39	51→47	弥生	BB3
52		ピット	0.55		0.34	52←53	弥生	BC4
53		ピット	1.20	0.50	0.20		弥生	BC4
54		ピット	0.75		0.09		弥生	BC4
55	1SK055	土壙	1.55+	1.00	0.23～0.07		弥生	BD5
56		ピット	0.60		0.07		弥生	BC4
57	1SK057	土壙	0.85	0.85+	0.19～0.14		弥生	BD4
58		ピット	0.60		0.11		古代	BD4
59		ピット	0.50		0.16		弥生	BD4
60	1SD060	溝	3.70+	0.55	0.15	60→70	弥生？	BD4～5
61		ピット	0.90		0.34～0.26		弥生	BD4
62		ピット	0.55	0.80	0.20		弥生	BD4
63		ピット						BD4
64		ピット						
65		ピット	0.55		0.35		？	
66		ピット	0.30		0.33		弥生	BE5
67		ピット	0.65		0.16		弥生	BE5
68		土壙？				68→70	弥生	BE4
		a	2.55	1.30	0.18			
		b	1.00		1.01		弥生	BE4
69								
70	1SD070	溝	4.30	0.65	0.22～0.18	70←60	古代？	BF5 ～BE4
71		ピット	0.55		0.16～0.11		？	BE4
72		ピット	0.40		0.18		弥生	BE4
73		ピット（北）	0.50		0.17～0.14		？	BF4
		ピット（南）	0.45		0.27～0.08		？	BF4
74	1SX074	ピット	0.35		0.20		弥生	BF4
75	1SX075	竪穴	3.40+	1.90+	0.04	75→70	弥生	BF5
76		土壙？	0.75	0.80	0.04	76→75	弥生	BF4
77	1SX077	竪穴	2.20+	1.90+	0.23～0.64		弥生	BF3
78	1SX078	竪穴	1.10+		0.03	78←75	弥生	BG5

Tab.1-3　梅島遺跡第1次調査遺構番号台帳（3）

仮番号	遺構番号	種別	南北長	東西長	深さ	所見	時期	地区
79	1SA079	柵列				79→1 →21	弥生	BG4
		柱掘り方a	0.80	0.80	0.76			BG4
		柱掘り方b	0.95	0.95	0.44			BG4
		柱掘り方c						BG4
80		ピット	0.50		0.35	80←78	弥生	BH4
81	1SK081	土壙	0.65		0.20		弥生	BH3
82		土壙？	2.00+	0.90	0.07	82→81	弥生	BH4
83		土壙	0.75	0.60+	0.05		弥生	BI3
84		ピット	0.50		0.32～0.20		弥生	BI4
85		ピット	0.60		0.07		弥生	BI4
86		ピット	0.70		0.14		弥生	BI4
87		土壙	0.65	1.25	0.35～0.10		弥生	BI4
88		ピット	0.50		0.54～0.17		弥生	BI4
89	1SX089	ピット	0.50		0.25～0.17		弥生	BI4
90		土壙	0.95+	0.80	0.35～0.10		弥生	BJ4
91	1SX091	竪穴	1.70+	1.10+	0.05		弥生	BJ3
92		ピット	0.30		0.25		弥生	BJ3
93		ピット	0.40		0.06		弥生	BJ4
94		土壙	0.45	0.30+	0.55		弥生	BJ4
95	1SK095	土壙					弥生	AK5

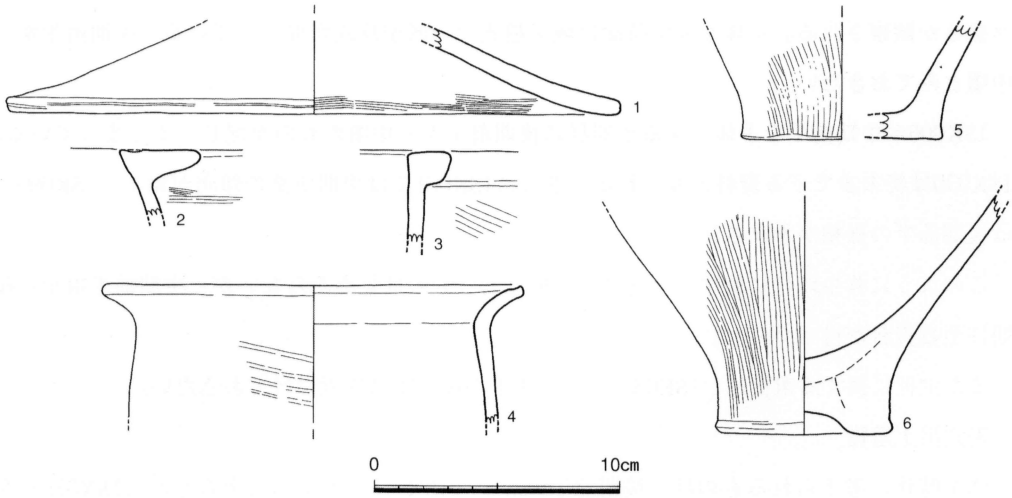


FIg.4　1SI001出土土器実測図（1/3）

(3) 出土遺物

すべての遺構から出土した遺物の概略をTab.2-1～2-3に一覧表として提示した。このうち遺構番号を付したものについて遺物の抽出を行い、実測図を掲載した。以下、遺構番号を付けた遺構から出土した資料について概要を報告する。

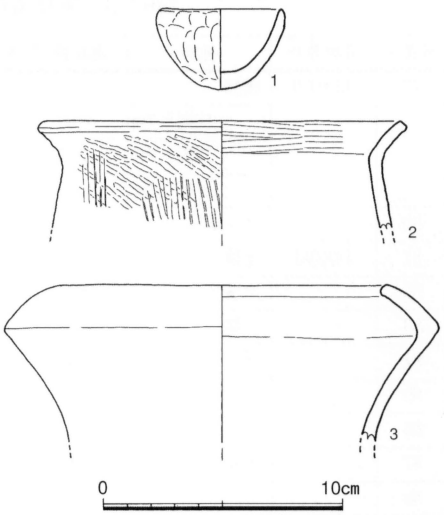


FIg.5　1SA079出土土器実測図（1/3）

【1】土器・陶磁器

竪穴住居出土遺物

1SI001出土の土器は4が後期に落ちるが他は中期前半から中頃に属するものである。

柵列出土土器

2は外面に叩きが観察され、西新式とみられる。後期後半。

溝出土遺物

1SD013・036・047は中世後期に属するもので、土師器鍋や須恵質土器擂鉢、白磁などが出土している。1SD045は中期前半の土器の傾向を示している。

土坑出土遺物

1SK010下層からは多量の弥生土器が出土している。器種は器台、蓋形土器、甕形土器で、甕形土器は口縁部の形状が三角形を呈するものと隅丸の方形を呈するものとの2種が主体を占めるが、いずれも端部は粘土紐貼付によって成形されている。外面の調整は刷毛目、内面では丁寧なナデによって仕上げられている。Fig.10-2は鉢形土器で、内外面ともに横方向の丁寧なヘラ磨きが観察される。主体を成す時期は城ノ越式で一部須玖式が混じっている。中期前半から中頃とみておきたい。

1SK006が中期前半を主体とする土器群に後期前半から中頃のものが混じってしまっている。1SK030は終末まで下る資料とみられる。さらに1SK081では中期中葉の傾向が窺え、1SK095では後期前半の様相が看取される。

このように弥生時代に属する土坑は、前期に遡るものは見あたらないが、中期前半頃から後期に至る資料が目立つ。

また中世に属する遺構は、1SK033・040で中世の後半頃に位置づけておきたい。

竪穴出土遺物

弥生時代に考えられるものは、後期前半のもの（1SX015）と中期前半のもの（1SX075）が資料に若干の混入が認められる。

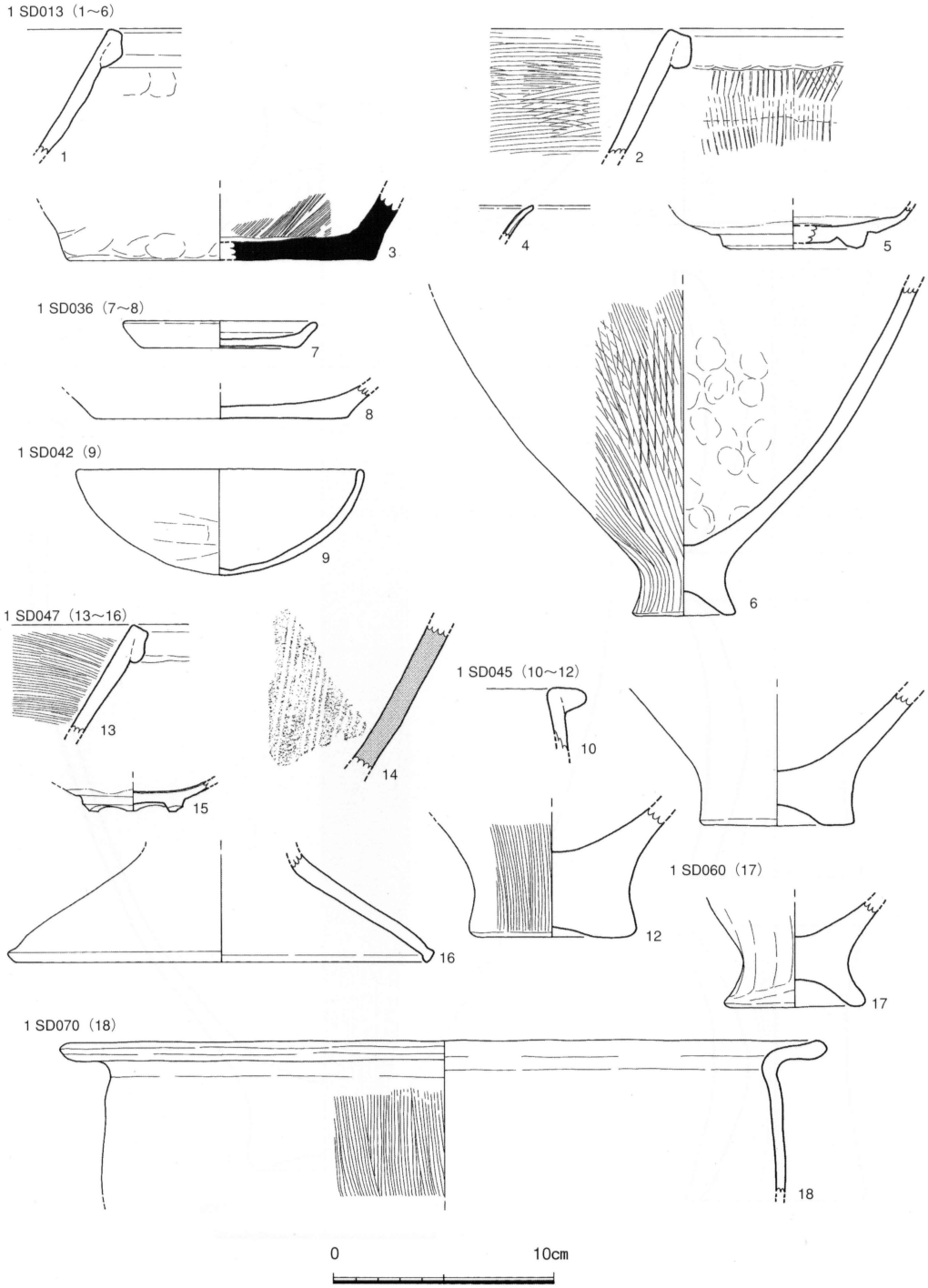


FIg.6　溝出土土器実測図（1/3）

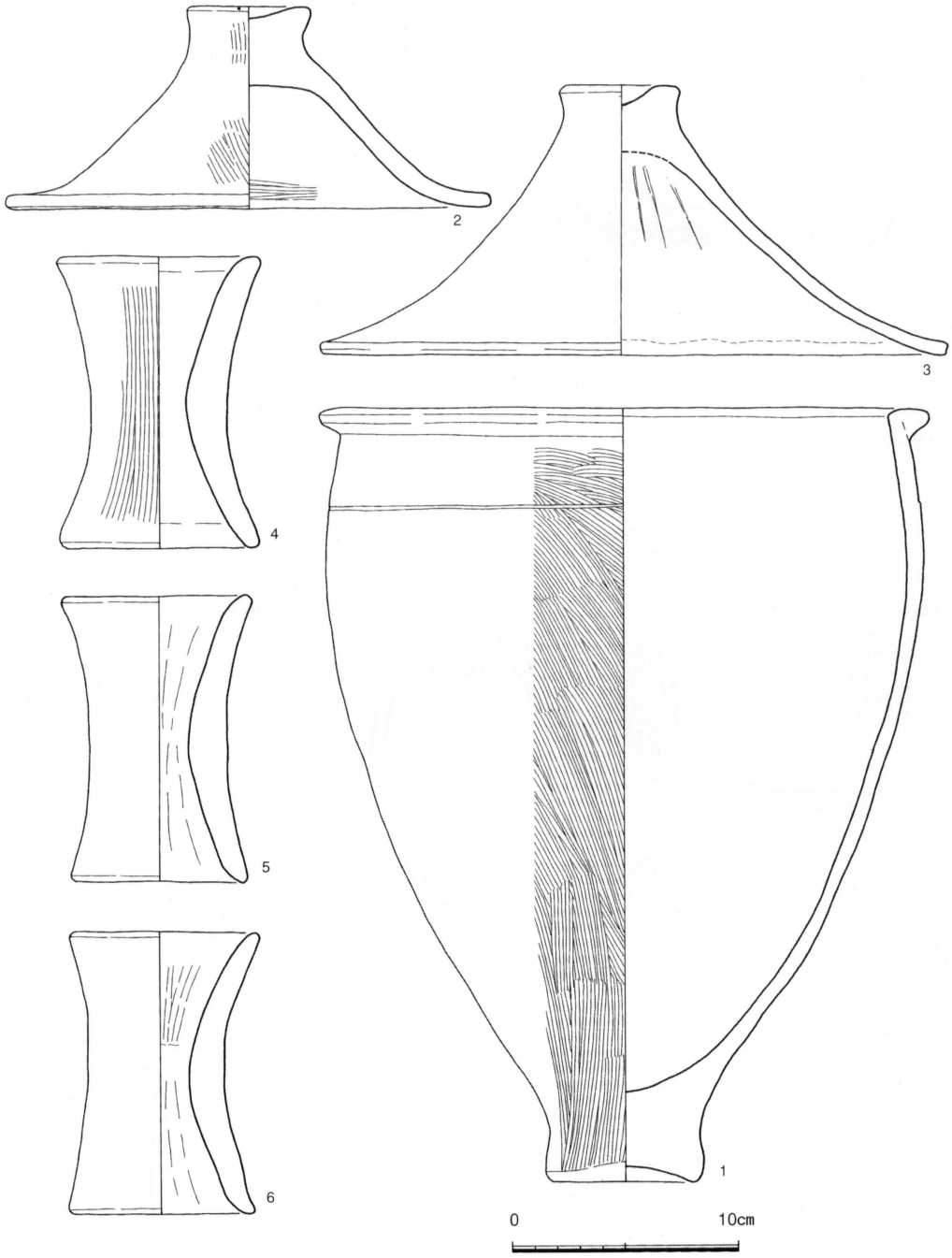


FIg.7　1SK010下層出土土器実測図1（1/3）

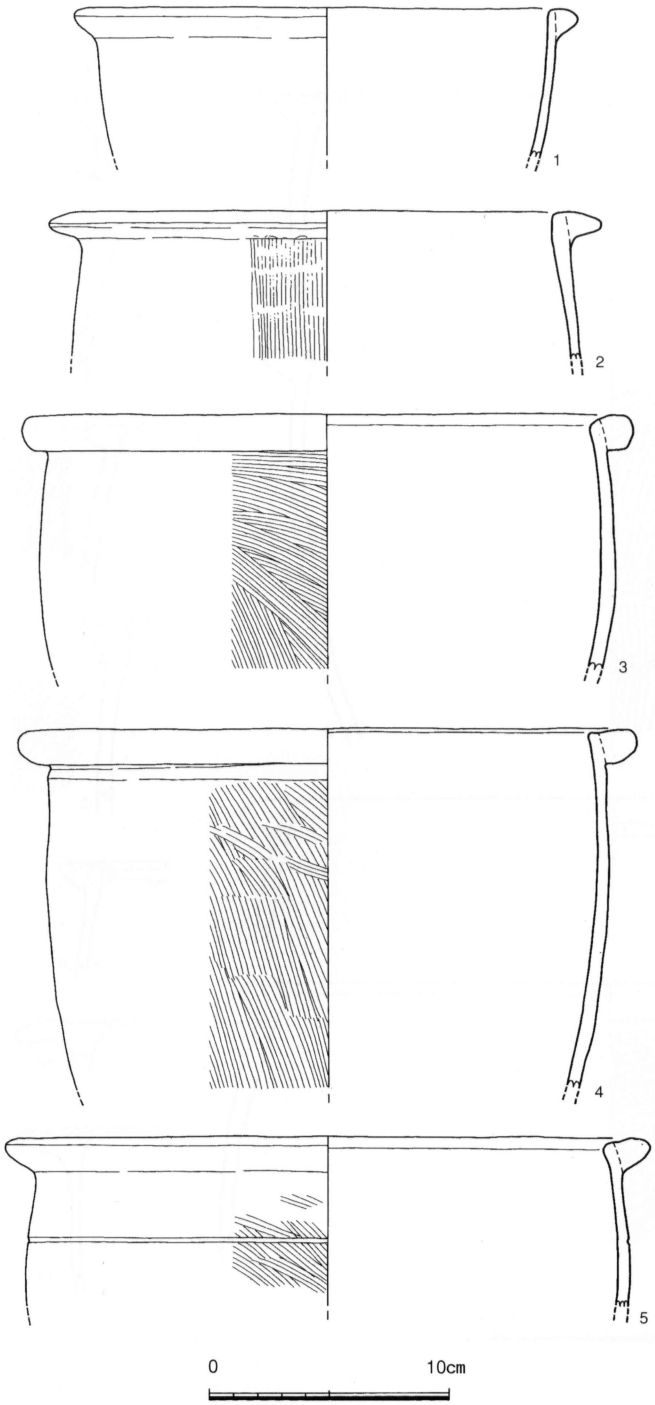


FIg.8　1SK010下層出土土器実測図2（1/3）

1SX048は白磁椀Ⅳ類と須恵器東播系鉢から中世前半に考えておきたい。1SX077も中世以降に考える必要がある。

その他の遺構出土遺物

1SX018は亀ノ甲式土器が含まれている。他の資料と合わせて中期前半に考えられる。1SX017も同様の時期とみられるが、中期中葉の壺片が混じり込む。1SX089は中期中葉の資料として捉えられよう。

さて、遺構出土土器の傾向をみると弥生時代では中期前半の時期が主体を占め、終末に近い時期までに断続的に遺構が観察される状況である。このうち中期前半の土器は城ノ越式が圧倒的に主体を占め、近接する八女市で顕著に認められる亀ノ甲式土器は極めて少ないという傾向がある。興味ある事例であり、今後の課題として検討して行きたい。

また、古墳時代に確実に属すると考えられるものはなく、続いて出現する土器は中世に入ってからである。中世では後半期が主体であり、こ

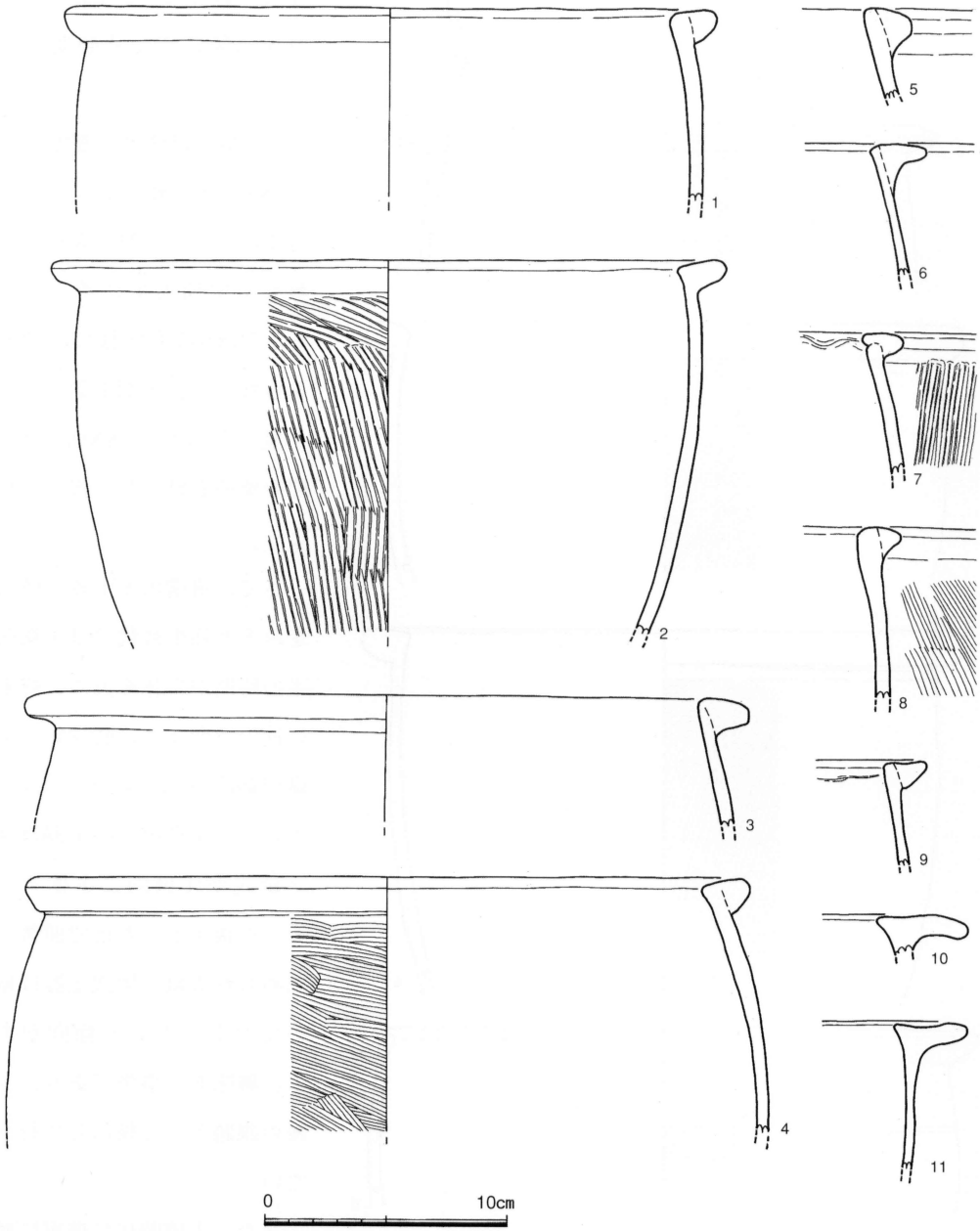


FIg.9　1SK010下層出土土器実測図3（1/3）

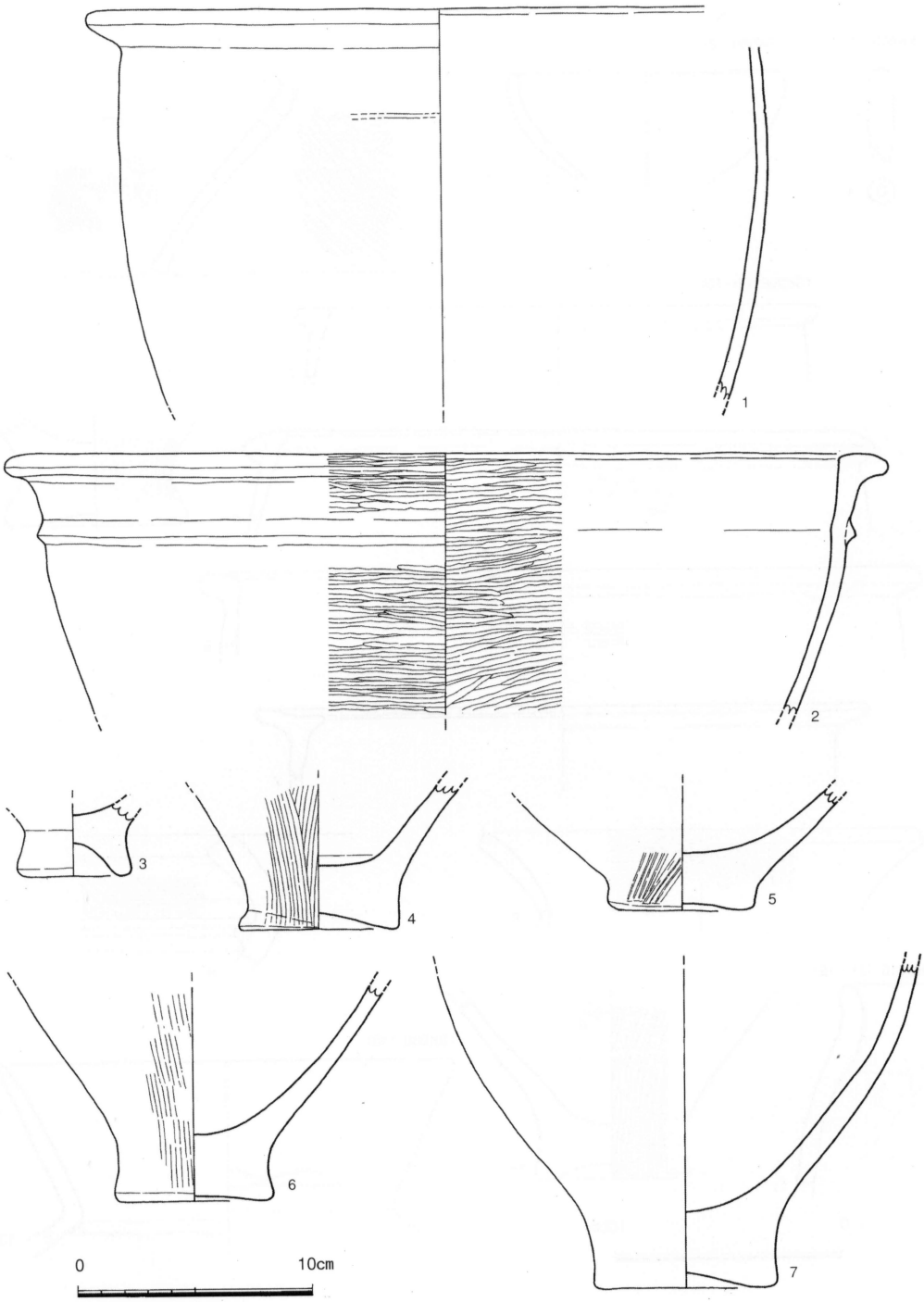


FIg.10　1SK010下層出土土器実測図4（1/3）

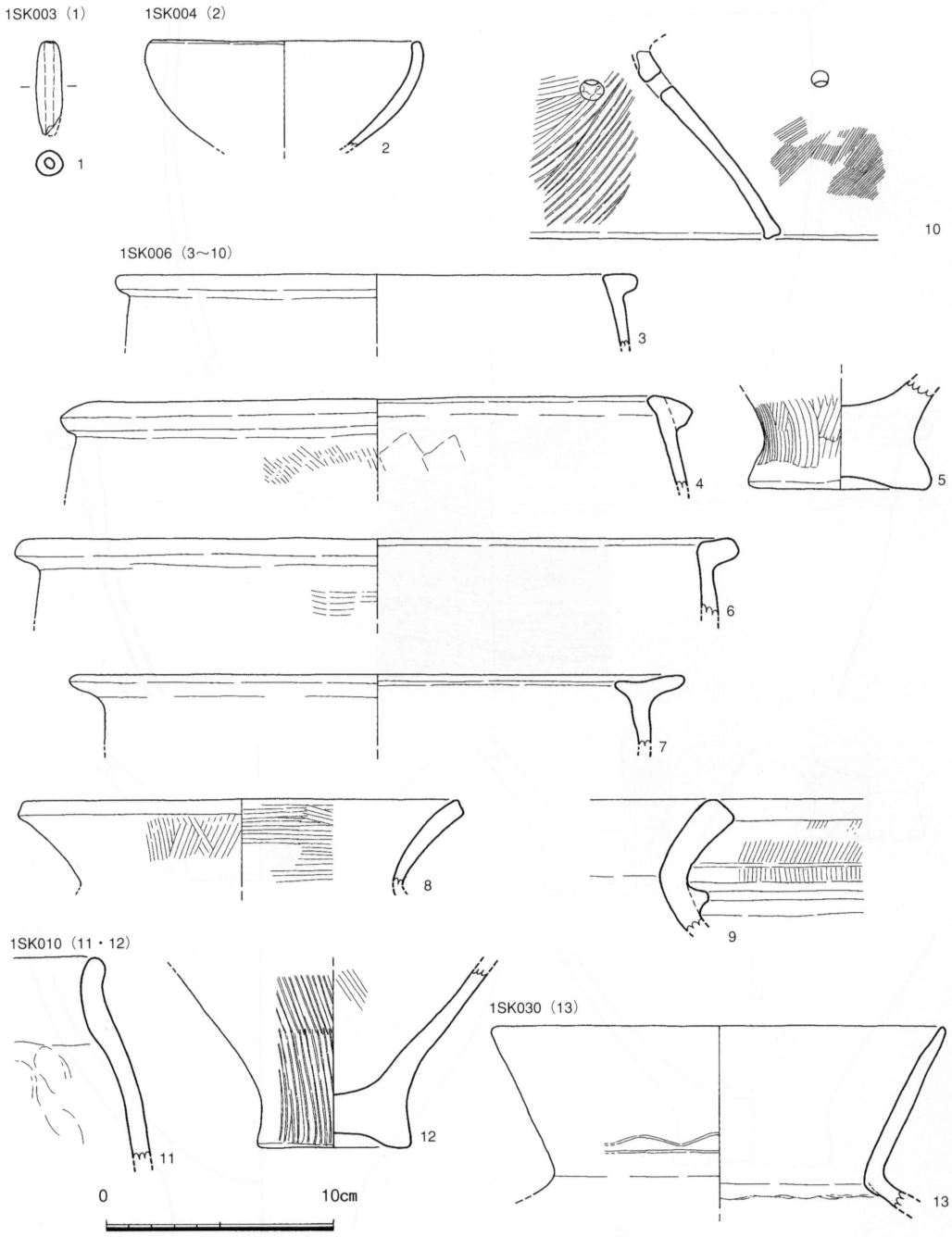


FIg.11　土坑出土土器実測図1（1/3）

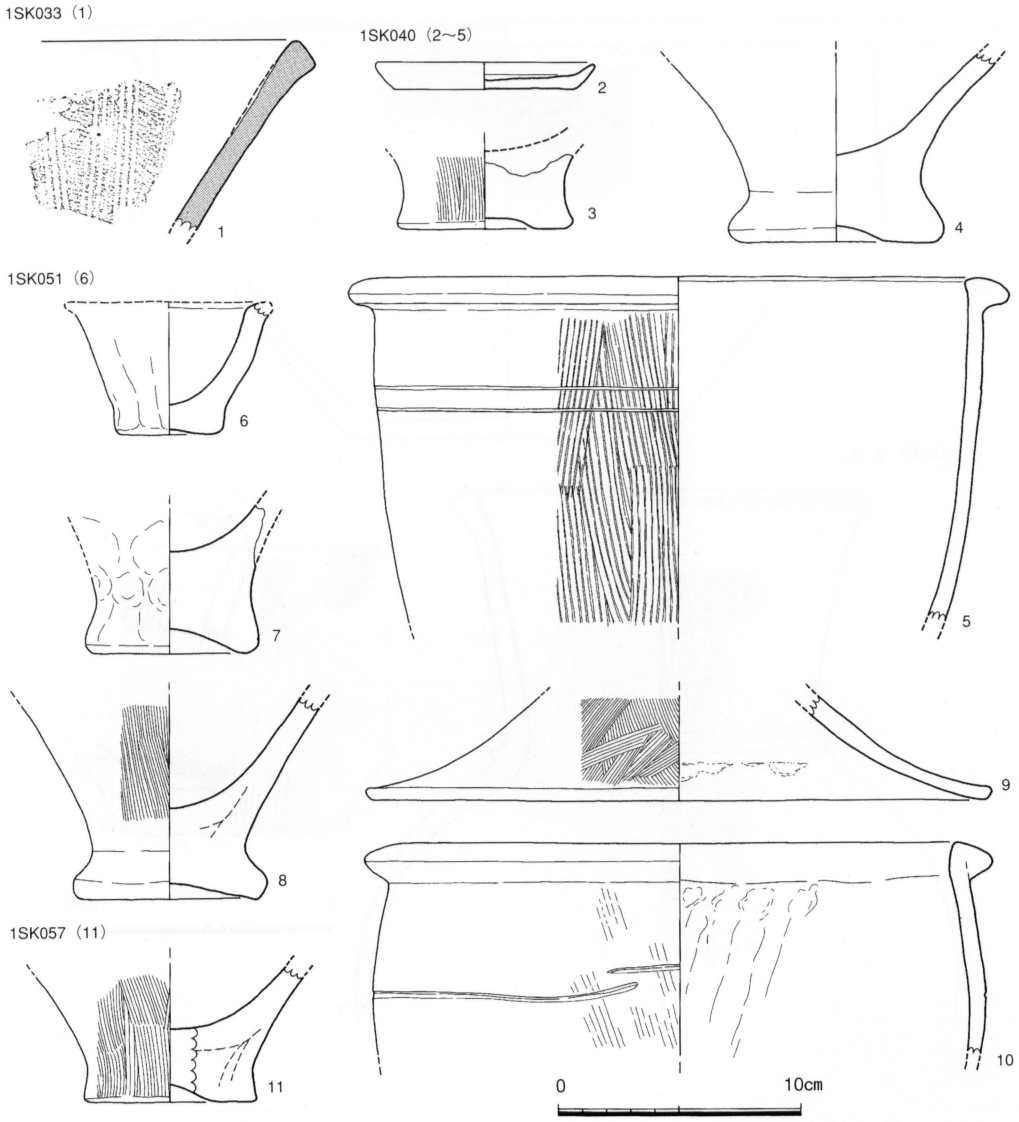


FIg.12　土坑出土土器実測図2（1/3）

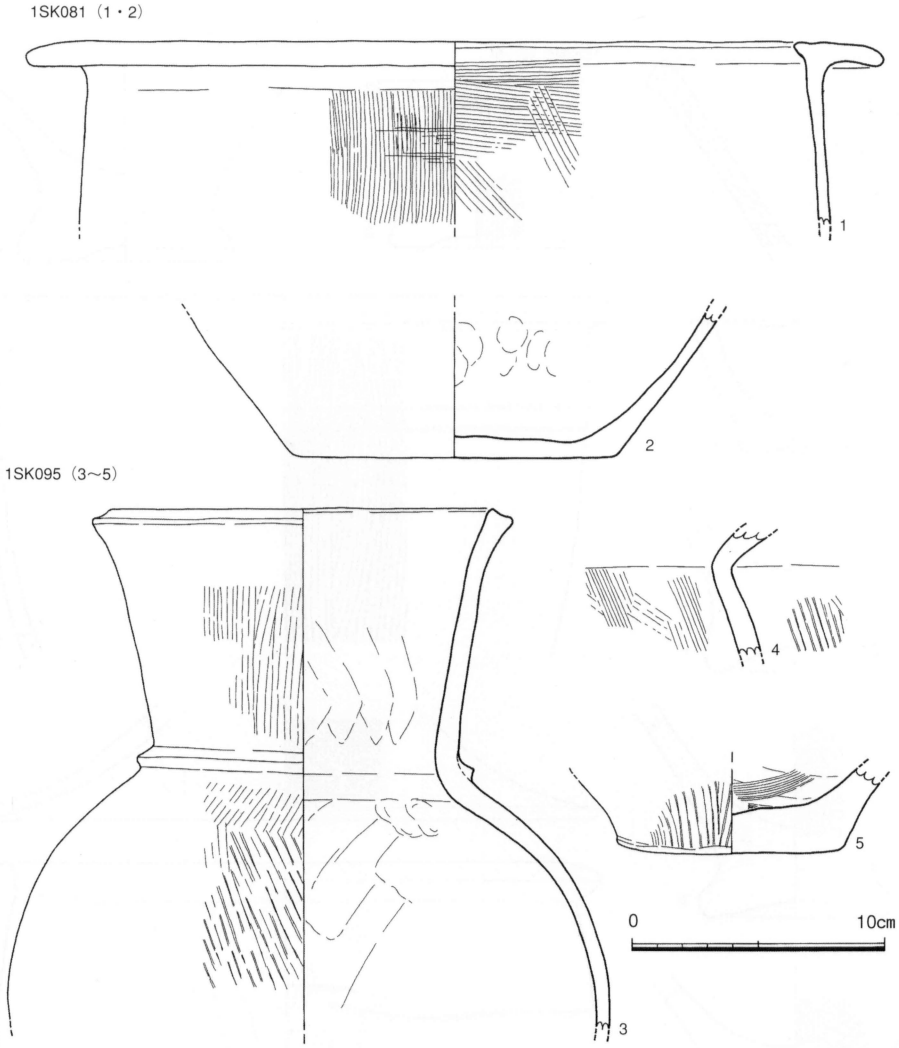


FIg.13　土坑出土土器実測図3（1/3）

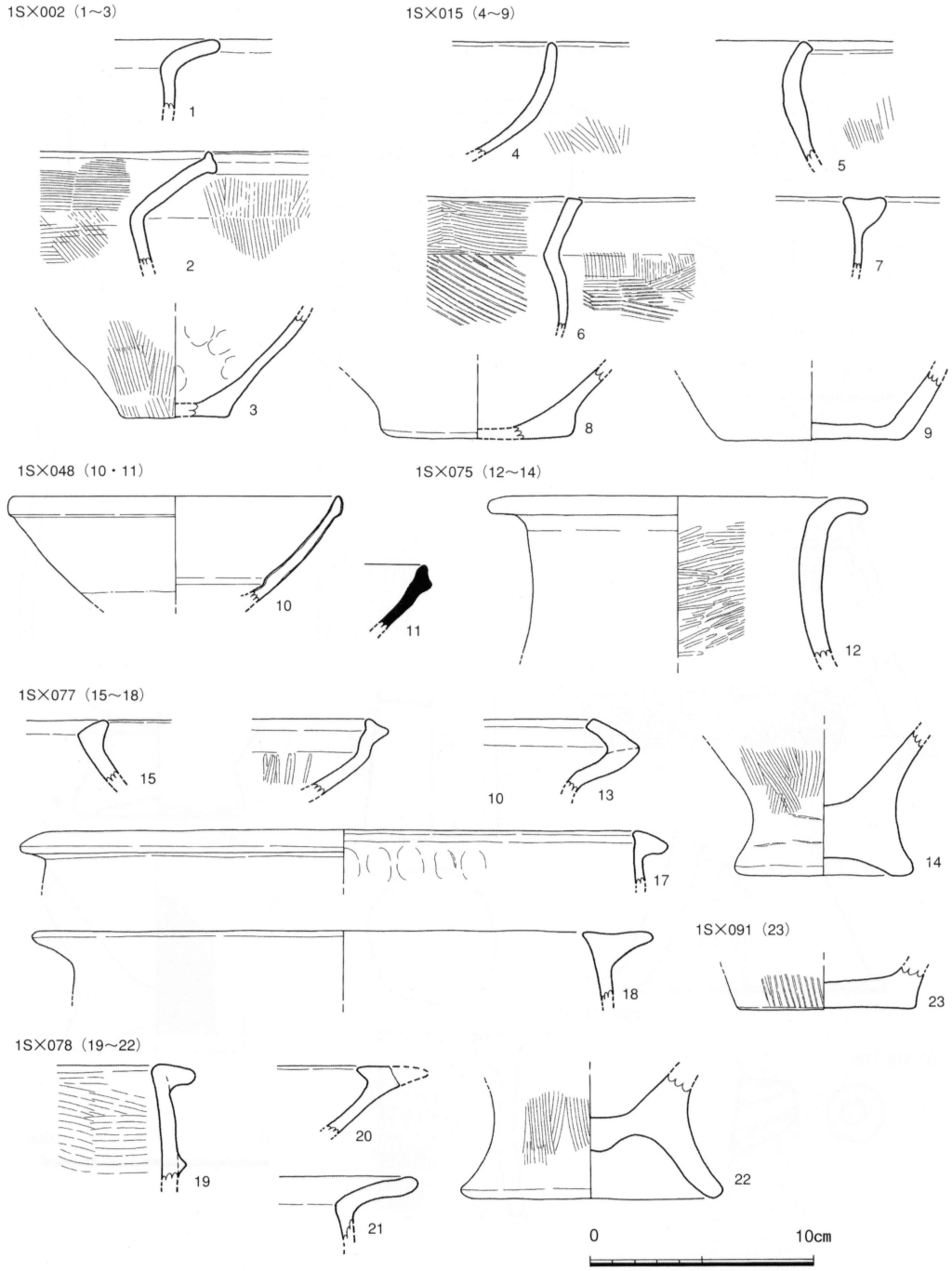


FIg.14　竪穴遺構出土土器実測図（1/3）

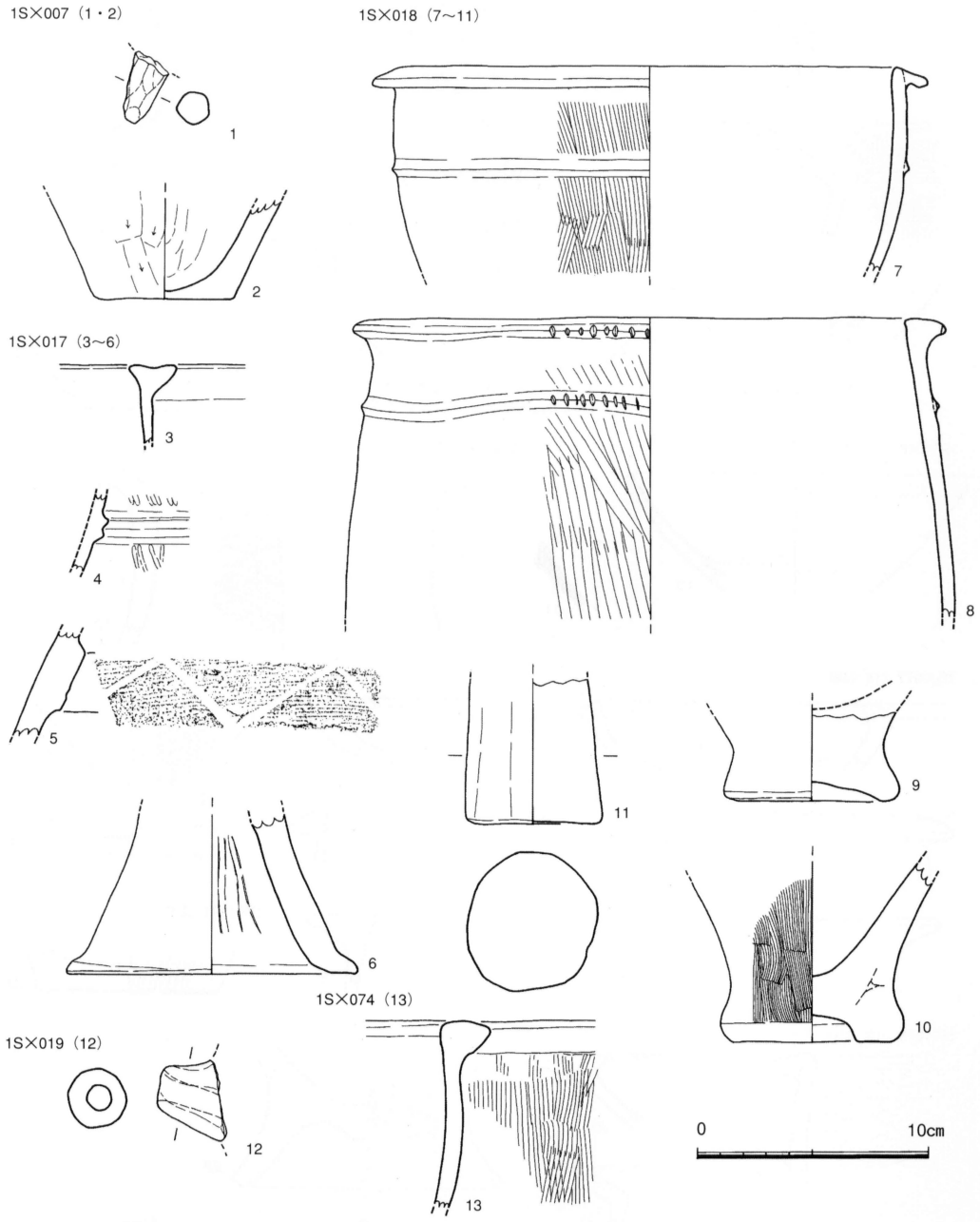


FIg.15　その他の遺構出土土器実測図（1/3）

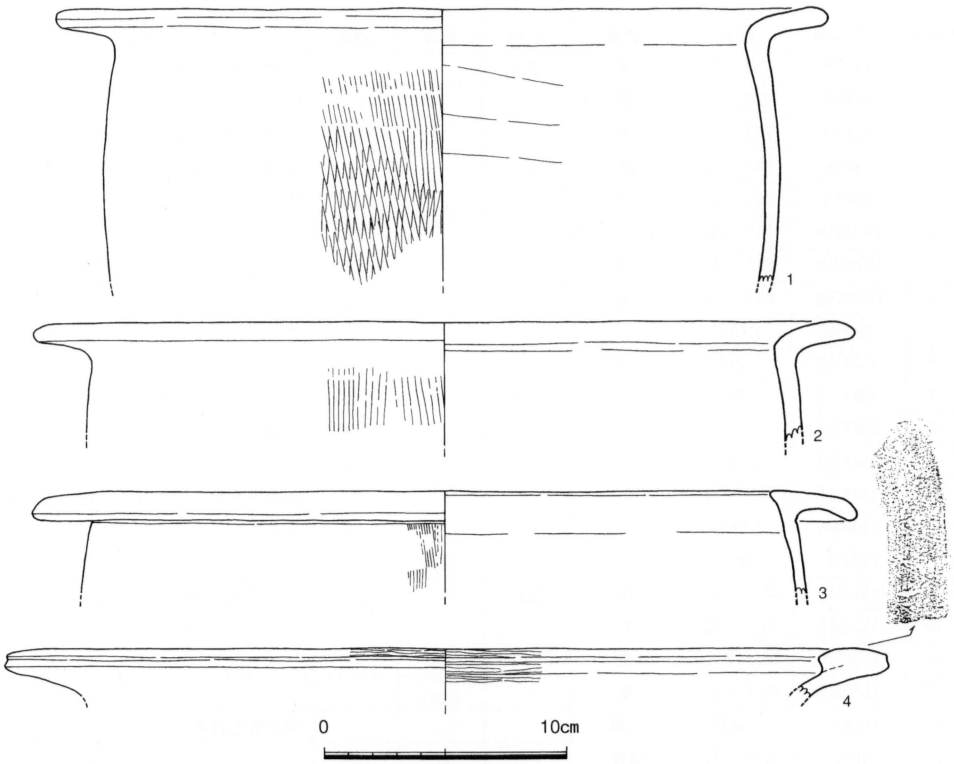


FIg.16　1SX089出土土器実測図（1/3）

Tab.2-1　梅島遺跡第1次調査出土遺物所見（1）

図版番号	出土遺構	種別	器種	口径	底径	器高	所見
4－1	1SI001	弥生土器	蓋	(25.2)	–	(3.5)	内面に刷毛目あり
4－2	1SI001	弥生土器	甕	–	–	(2.7)	
4－3	1SI001	弥生土器	甕	–	–	(3.7)	外面に刷毛目あり
4－4	1SI001	弥生土器	甕	(17.2)	–	(5.7)	体部外面に平行叩きあり
4－5	1SI001	弥生土器	甕	–	(7.2)	(9.8)	体部外面に刷毛目あり
5－1	1SA079a	弥生土器	手ずくね土器	(5.2)	–	3.3	
5－2	1SA079a	弥生土器	甕	(15.4)	–	(4.4)	画面叩きの後、刷毛目調整
5－3	1SA079a	弥生土器	壷	(18.2)	–	(6.6)	
6－1	1SD013	土師器	土鍋	–	–	(5.7)	体部外面粗いヘラ削りと指頭痕あり
6－2	1SD013	土師器	土鍋	–	–	–	
6－3	1SD013	須恵器	擂鉢	–	(14.0)	(3.1)	8本単位の櫛目あり
6－4	1SD013	白磁	皿	–	–	(1.5)	IX類
6－5	1SD013	白磁	皿	–	(6.4)	(1.8)	
6－6	1SD013	弥生土器	甕	–	4.7	(14.8)	体部外面刷毛目あり、内面指圧痕あり
6－7	1SX036	土師器	小皿	(8.8)	7.0	1.2	底部糸切り
6－8	1SX036	土師器	坏	–	(11.4)	–	
6－9	1SD042	弥生土器	鉢	(13.0)	–	4.8	体部外面、手持ちヘラ削り
6－10	1SX045	弥生土器	甕	–	–	–	
6－11	1SX045	弥生土器	甕	–	(7.0)	–	
6－12	1SX045	弥生土器	甕	–	(7.6)	–	
6－13	1SD047	土師器	土鍋	–	–	–	内面刷毛目あり
6－14	1SD047	瓦質土器	擂鉢	–	–	–	
6－15	1SD047	白磁	皿	–	(4.6)	–	
6－16	1SD047	土師器	不明	(19.4)	–	–	
6－17	1SD060	弥生土器	甕	–	(6.4)	(4.8)	外面刷毛目あり
6－18	1SD070	弥生土器	甕	(35.0)	–	(6.9)	
7－1	1SK010下層	弥生土器	甕	27.0	7.0	34.4	外面刷毛目あり
7－2	1SK010下層	弥生土器	蓋	–	(21.4)	9.0	
7－3	1SK010下層	弥生土器	蓋	–	(28.0)	11.9	
7－4	1SK010下層	弥生土器	器台	(9.0)	(8.8)	12.9	体部外面刷毛目あり
7－5	1SK010下層	弥生土器	器台	(8.3)	(7.8)	12.7	
7－6	1SK010下層	弥生土器	器台	(8.3)	(8.2)	12.5	体部内面工具によるナデあり
8－1	1SK010下層	弥生土器	甕	(21.0)	–	–	
8－2	1SK010下層	弥生土器	甕	(23.0)	–	–	刷毛のあとナデあり
8－3	1SK010下層	弥生土器	甕	(25.6)	–	–	外面に刷毛目あり
8－4	1SK010下層	弥生土器	甕	(26.0)	–	–	体部外面に刷毛目あり
8－5	1SK010下層	弥生土器	甕	(27.0)	–	–	体部外面に刷毛目あり
9－1	1SK010下層	弥生土器	甕	(27.0)	–	–	
9－2	1SK010下層	弥生土器	甕	(28.0)	–	–	体部外面に刷毛目あり
9－3	1SK010下層	弥生土器	甕	(30.0)	–	–	
9－4	1SK010下層	弥生土器	甕	(30.0)	–	–	体部外面に刷毛目あり
9－5	1SK010下層	弥生土器	甕	–	–	–	
9－6	1SK010下層	弥生土器	甕	–	–	–	
9－7	1SK010下層	弥生土器	甕	–	–	–	体部外面に刷毛目あり
9－8	1SK010下層	弥生土器	甕	–	–	–	
9－9	1SK010下層	弥生土器	甕	–	–	–	体部外面に刷毛目あり
9－10	1SK010下層	弥生土器	甕	–	–	–	

Tab.2-2　梅島遺跡第1次調査出土遺物所見（2）

図版番号	出土遺構	種別	器種	口径	底径	器高	所見
9－11	1SK010下層	弥生土器	甕	－	－	－	
10－1	1SK010下層	弥生土器	甕	30.5	－	17.0	
10－2	1SK010下層	弥生土器	甕	(38.0)	－	－	内外面にミガキが入る
10－3	1SK010下層	弥生土器	壷	－	4.8	－	
10－4	1SK010下層	弥生土器	甕	－	6.8	－	外面に刷毛目あり
10－5	1SK010下層	弥生土器	壷	－	6.2	－	
10－6	1SK010下層	弥生土器	甕	－	6.8	－	
10－7	1SK010下層	弥生土器	甕	－	7.8	－	
11－1	1SK003	土製品	土錘	1.2*	4.15*	－	＊最大径と現存長を記入
11－2	1SK004a	弥生土器	鉢	(11.9)	－	(4.7)	
11－3	1SK006	弥生土器	甕	(27.0)	－	(4.0)	刷毛目あり
11－4	1SK006	弥生土器	甕	(27.0)	－	(4.0)	外面に刷毛目あり
11－5	1SK006	弥生土器	甕	－	8.0	(4.9)	外面に刷毛目あり
11－6	1SK006	弥生土器	甕	(32.0)	－	(3.5)	
11－7	1SK006	弥生土器	甕	(27.2)	－	(3.2)	
11－8	1SK006	弥生土器	甕	(19.6)	－	(3.8)	内外面刷毛目あり
11－9	1SK006	弥生土器	甕	－	－	(5.9)	外面に刷毛目あり
11－10	1SK006	弥生土器	高坏	－	－	(8.3)	脚部に穿孔あり
11－11	1SK010上層	弥生土器	甕	－	－	－	
11－12	1SK010上層	弥生土器	甕	－	－	(6.8)	外面に刷毛目あり
11－13	1SK030	弥生土器	壷	(20.0)	－	－	浅い線刻文様あり
12－1	1SK033下層	瓦質土器	擂鉢	－	－	－	外面刷毛のあと櫛目あり
12－2	1SK040	土師器	小皿	(9.0)	(7.4)	1.1	底部糸切り
12－3	1SK040	弥生土器	甕	－	7.2	－	外面に刷毛目あり
12－4	1SK040	弥生土器	甕	－	8.8	－	
12－5	1SK040	弥生土器	甕	(27.4)	－	－	外面に刷毛目あり
12－6	1SK051	弥生土器	手ずくね小鉢	(8.6)	(4.5)	(5.5)	
12－7	1SK055	弥生土器	甕	－	(7.1)	－	
12－8	1SK055	弥生土器	甕	－	8.1	－	外面に刷毛目あり
12－9	1SK055	弥生土器	蓋	－	－	－	刷毛目あり
12－10	1SK055	弥生土器	甕	(26.0)	－	－	外面に刷毛目あり
12－11	1SK057	弥生土器	甕	－	(7.1)	(5.7)	
13－1	1SK081	弥生土器	甕	(34.2)	－	(7.2)	内外面に刷毛目あり
13－2	1SK081	弥生土器	壷	(12.8)	－	(5.8)	
13－3	1SK095	弥生土器	壷	16.8	－	(20.6)	
13－4	1SK095	弥生土器	甕	－	－	(4.7)	内外面に刷毛目あり
13－5	1SK095	弥生土器	甕	－	9.1	(2.4)	外面に刷毛目あり
14－1	1SX002	弥生土器	甕	－	－	(3.2)	
14－2	1SX002	弥生土器	甕	－	－	(5.0)	内外面に刷毛目あり
14－3	1SX002	弥生土器	壷	－	(4.8)	(4.6)	外面に刷毛目あり
14－4	1SX015	弥生土器	鉢	－	－	(5.1)	外面に刷毛目あり
14－5	1SX015	弥生土器	甕	－	－	(5.5)	
14－6	1SX015	弥生土器	甕	－	－	(5.9)	内外面に刷毛目あり
14－7	1SX015	弥生土器	甕	－	－	(3.2)	
14－8	1SX015	弥生土器	甕	－	(8.6)	(3.3)	
14－9	1SX015	弥生土器	甕	－	(8.4)	(3.1)	
14－10	1SK048	白磁	椀	(15.0)	－	－	IV-1-b類

Tab.2-3　梅島遺跡第1次調査出土遺物所見（3）

図版番号	出土遺構	種別	器種	口径	底径	器高	所見
14－11	1SK048	須恵器	鉢	－	－	－	
14－12	1SX075	弥生土器	壷	(17.0)	－	(7.2)	内面にミガキあり
14－13	1SX075	弥生土器	壷	－	－	(3.3)	
14－14	1SX075	弥生土器	甕	－	7.9	(6.6)	外面に刷毛目あり
14－15	1SX075	弥生土器	壷	－	－	(2.8)	口縁部丹塗りあり
14－16	1SX075	弥生土器	高坏	－	－	(3.5)	内面に縦方向のミガキあり
14－17	1SX077	弥生土器	甕	(29.2)	－	(2.4)	
14－18	1SX077	弥生土器	甕	(28.0)	－	(3.1)	
14－19	1SX078	弥生土器	甕	－	－	(5.1)	内面に刷毛目あり
14－20	1SX078	弥生土器	高坏	－	－	(3.1)	内外面丹塗りあり
14－21	1SX078	弥生土器	甕	－	－	(2.9)	
14－22	1SX078	弥生土器	甕	－	11.7	(5.7)	外面に刷毛目あり
14－23	1SX091	弥生土器	甕	－	8.0	(1.9)	外面に刷毛目あり
15－1	1SX007	土製品	脚	－	－	－	
15－2	1SX007	弥生土器	甕	－	(6.1)	(4.4)	外面ヘラ削り
15－3	1SX017	弥生土器	甕	－	－	(3.6)	
15－4	1SX017	弥生土器	壷	－	－	(3.3)	外面にミガキあり
15－5	1SX017	弥生土器	甕	－	－	(4.6)	外面に刷毛目あり
15－6	1SX017	弥生土器	器台	－	(12.6)	(7.0)	
15－7	1SX018	弥生土器	甕	(24.2)	－	(8.9)	外面に刷毛目あり
15－8	1SX018	弥生土器	甕	(25.8)	－	(13.0)	外面に刷毛目あり
15－9	1SX018	弥生土器	甕	－	7.6	(3.9)	
15－10	1SX018	弥生土器	甕	－	(8.0)	(7.9)	外面に刷毛目あり
15－11	1SX018	弥生土器	支脚	－	5.9～6.4	(6.4)	
15－12	1SX019	弥生土器	注口部分	－	－	－	
15－13	1SX074	弥生土器	甕	－	－	(8.1)	外面に刷毛目あり
16－1	1SX089	弥生土器	甕	(32.0)	－	(11.3)	外面に刷毛目、内面は工具によるナデあり
16－2	1SX089	弥生土器	甕	(34.0)	－	(5.0)	外面に刷毛目、内面は工具によるナデあり
16－3	1SX089	弥生土器	甕	(34.2)	－	(4.2)	外面に刷毛目あり
16－4	1SX089	弥生土器	壷	(36.6)	－	(2.0)	口縁部ヘラ磨きのあと工具による文様あり

の時期に小規模な集落が形成されていた可能性が窺える。

【2】石器

（4）石包丁は泥岩製で、13.5cm×5.0cm×0.7cmを測る。紐穴の特色から弥生時代中期に属する資料と考えられる。1SK003出土。（6）石剣は平面的な作りのもので、鎬がないタイプとみられる。頁岩製で、5.3cm×3.1cm×0.55cm。1SK004出土。（5）扁平磨製石鏃は珪質泥岩製で、5.9cm×3.5cm×0.45cmを測る。両側面の上位に刃部をつぶした平坦面がみられる。1SI001出土。この石鏃及び石剣は中期の所産であろう。他に安山岩製の打製石鏃（1は1SK003、2・3は1SK040）、砥石（7・1SK040）が出土している。

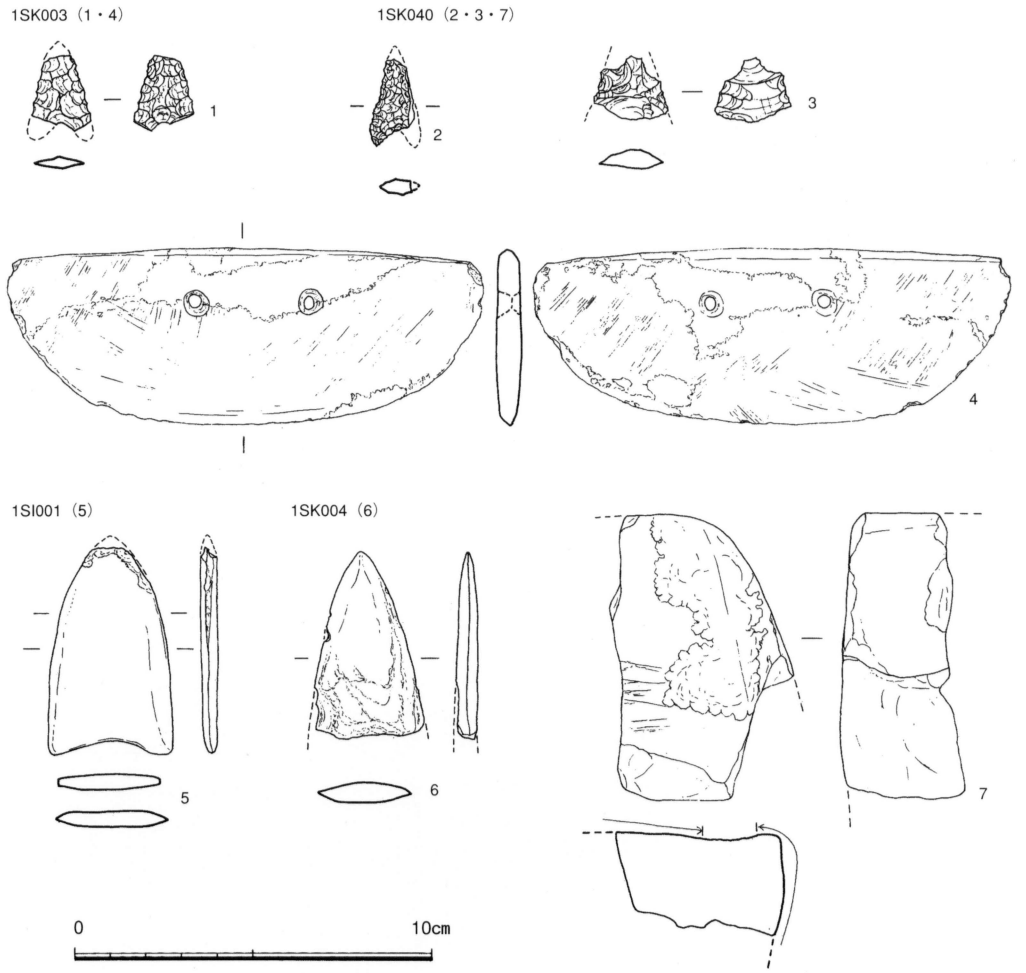


FIg.17　梅島遺跡出土石器実測図（1/2）

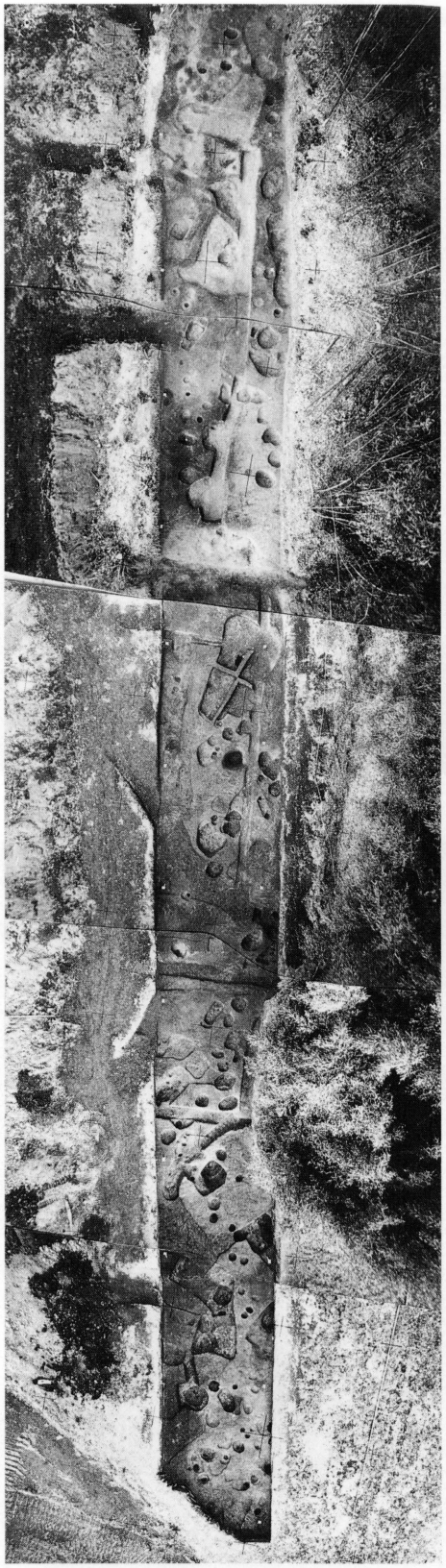
Ⅳ．結語

今回の調査では調査区の幅が約4mと極めて南北に細長い調査となったため、遺跡の全体像を知るには余りにも無理がある。しかしながら、このような発掘調査を続けているのは点の調査もそれをつないでゆくことによって線の調査となり、さらには面の調査につながってゆくと確信しているからである。

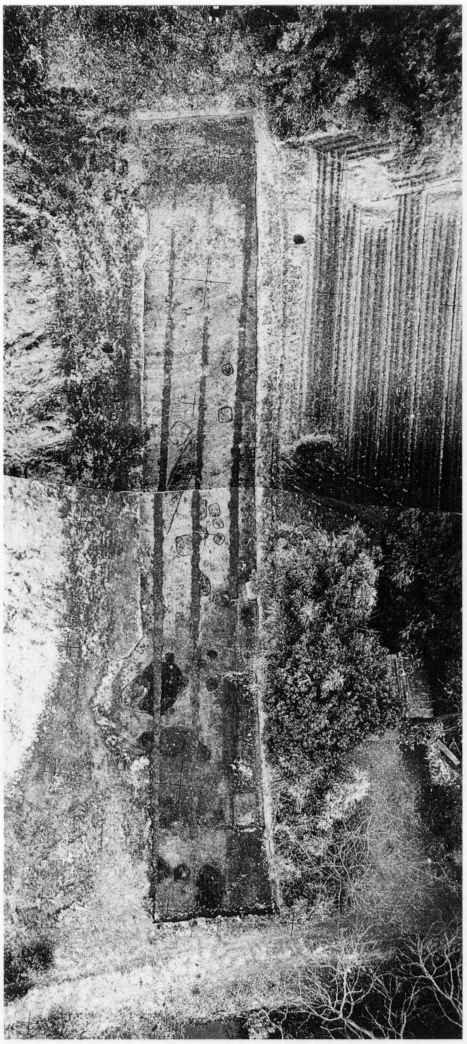
折しも、平成3年度事業で梅島遺跡第2次調査を実施したところである。第2次調査の場所が今次の調査に隣接していることから、その成果と合わせることにより今回の調査もまさに面の調査の一部として、生かすことができるのである。

写真図版

※遺物写真については、梅島遺跡第2次調査報告書に
掲載する。



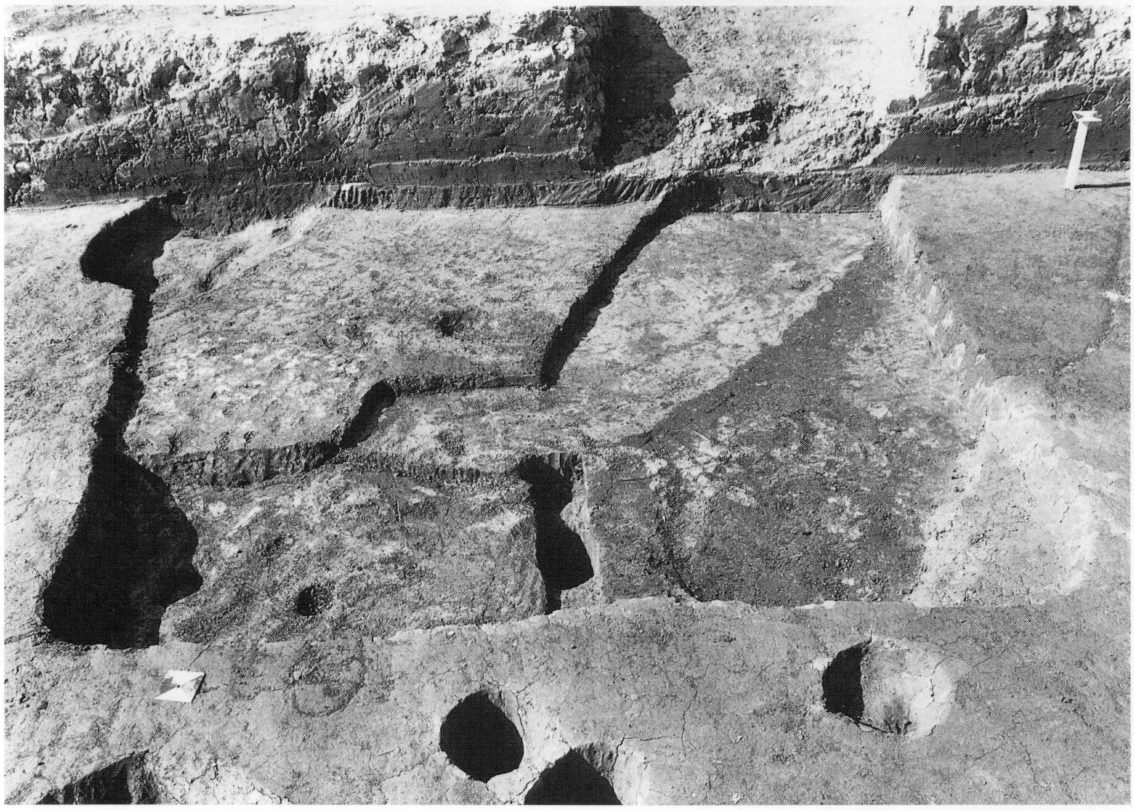
南区



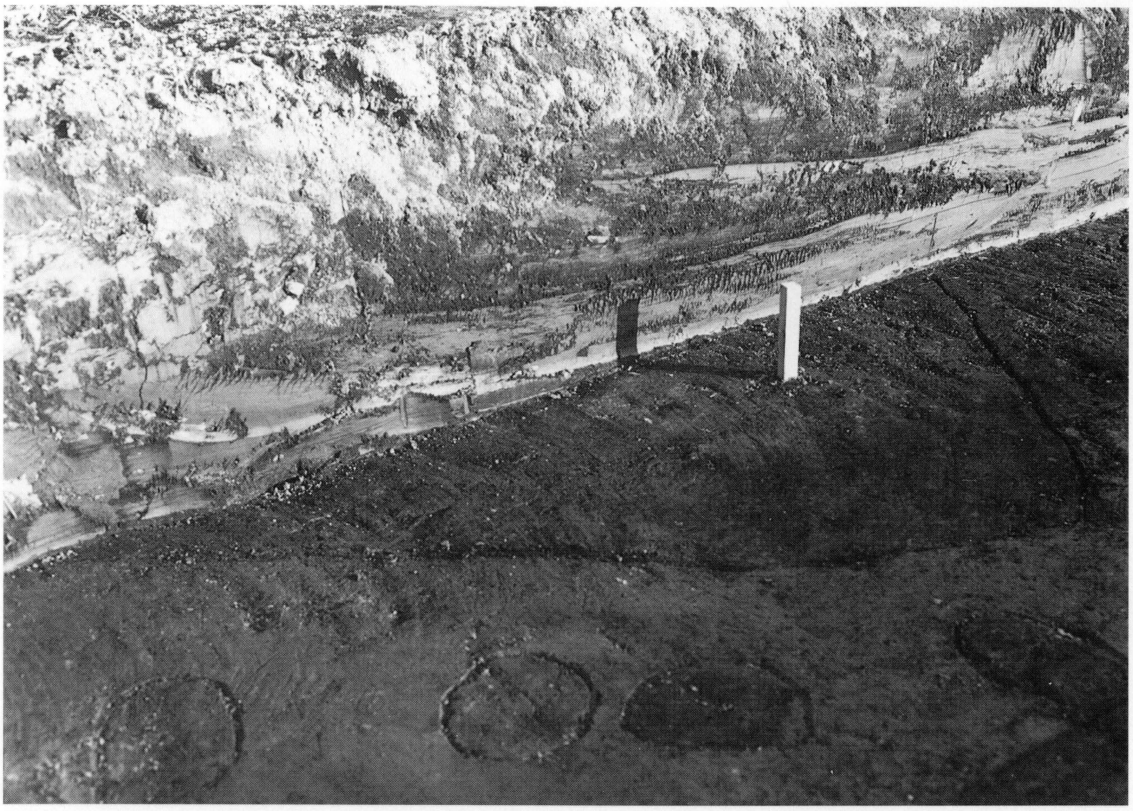
北区

Pla.1　梅島遺跡第１次調査全景
（航空写真：真上から）
（上が北）

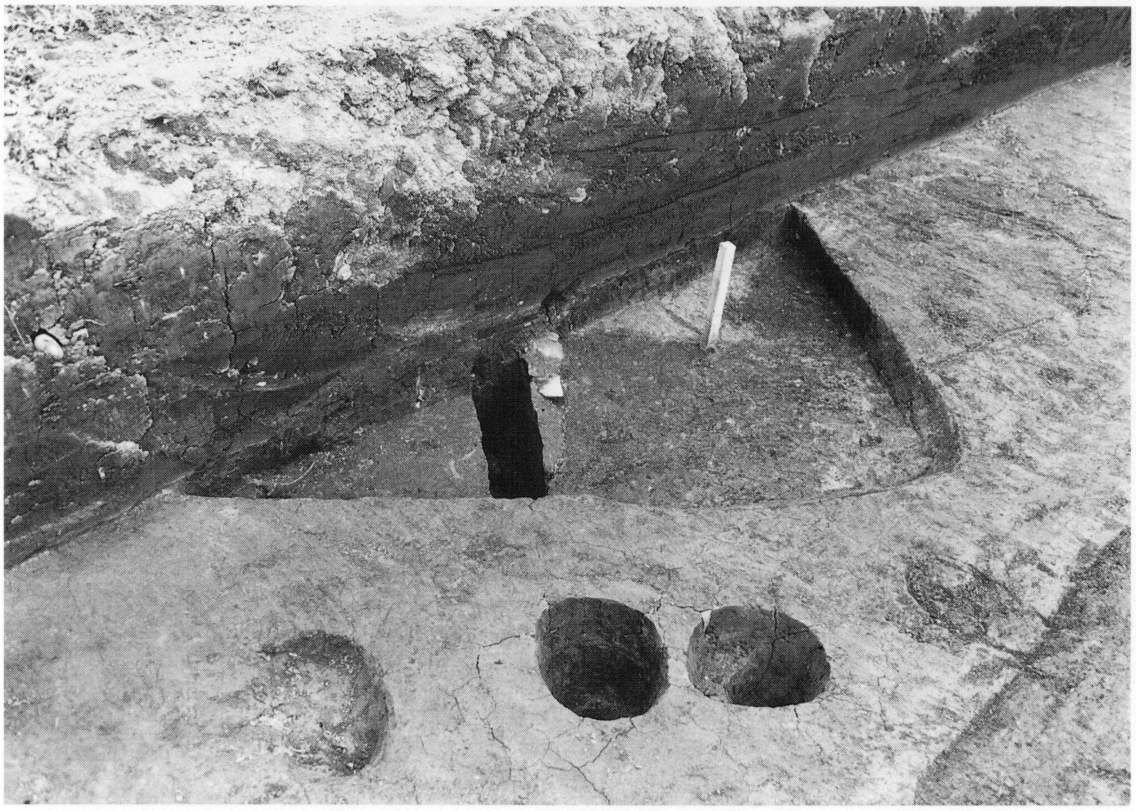
1SI001 検出状況(北から)



1SI001 (東から)



1SX002 検出状況(北西から)



1SX002 (北西から)

1SK004 （東から）

1SK021 遺物出土状況（東から）

1SK095 遺物出土状況

1SK095 遺物出土状況

梅島（うめじま）遺跡

第1次調査

筑後市文化財調査報告書

1992年３月

発行　筑後市教育委員会

福岡県筑後市大字山ノ井898

印刷　（株）ヒガシ印刷

福岡県筑後市大字山ノ井315-1